

第1章 近代教育の発足 ～明治前期の教育～

タイトル	明治初期の学校設立と靑絵学校・増上寺
内容	明治時代になり、新政府が教育制度を模索する過程で港区内の施設が活用されることになった。その中心的役割を果たした靑絵学校および増上寺関連寺院を取り上げる。

第2章 近代教育の進展 ～明治後期の教育～

タイトル	明治・大正の教師たち -東京の小学校で教え、働く-
内容	明治期、全国を通じて「正規の」資格を持つ小学校教員は慢性的に欠乏状態にあった。「教員養成所」「教員講習所」は、その不足を補うためのものだった。やがて、大正期の東京では不足が解消すると、「首都東京にふさわしい教師を育てるため」の教員講習所が計画された。教師をめぐる考え方の変化を追う。

第3章 近代教育の拡充 ～大正期の教育～

タイトル	「特殊小学校」とその廃止
内容	経済的に窮迫している子どもたちへの就学普及を目的として東京市が設置した「東京市特殊尋常小学校」（「特殊小学校」）は、大正15年に廃止、所在区に移管された。「特殊小学校」の廃止に至る事情を見ながら、異なる社会階層の子どもが種類の学校へ就学する方向に変化していくことを述べる。

第4章 戦時体制下の教育 ～昭和前期の教育～

タイトル	港区の子どもたちと学童疎開
内容	戦時下、港区から多摩地域や栃木県に学童疎開がなされた。当時の生活や教育指導を伝える資料を通して、当時の子どもたちをめぐる状況を紹介する。

第5章 戦後教育の展開 ～戦後復興期の教育～

タイトル	「新教育」は何が「新しい」？
内容	「新教育」とは「戦後新教育」の意味から昭和20年代以降の教育が想起されがちである。しかし、昭和以前の「大正新教育」も見逃せない。しかも東京では、一部の私立学校や師範学校附属学校のみならず、公立学校でも行われた。意外なことに、戦時体制期にも「新教育」の要素があり、これら「新教育」の様子を紹介する。

第6章 教育の質的向上 ～経済成長期の教育～

タイトル	『港区の教育』と『学校教育指導要覧』
内容	港区の教育の歴史に関する基本資料である『学校教育指導要覧』と『港区の教育』の変遷を概説する。昭和55年以前は学校教育の全体像を一覧した『学校教育指導要覧』が刊行され、昭和56年以降は学校教育と社会教育全般の概要を記した『港区の教育』がそれに代わった。区民が教育行政を知る手がかりとなる『港区の教育』の意義を紹介する。